

自主防災組織をつくりましょう！

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、救出された方たちの約95%が自力または家族、隣人によって救出されています。

災害が大きければ大きいほど被災者数が増えることとなり、市役所や消防などの防災関係機関自体も被害を受けたり、情報が混乱したり、道路などの公共施設が被害を受け、応急活動に支障を来したりするケースなども考えられます。

そこで、地域住民が相互に助け合い、人命救助や初期消火などに努める自主防災組織の結成が不可欠となります。

しかし、自主防災組織の加入率は、全国平均で約60%になりますが、登別市ではまだ35%ほどにとどまっています。

あなたの町内会などでも自主防災組織の結成に向けて考えてみませんか。

市は、自主防災組織の結成を支援しています。ぜひ、ご相談ください。

— 自主防災組織の活動 —

- 平常時
地域内の危険箇所の点検、防災知識の普及、防災訓練の実施、防災資機材の整備など
- 災害時
情報収集と伝達、出火防止・初期消火、避難、救出・救護など

- 正しい気象情報を入力しましょう。予想される被害の対策を事前に行うことで、被害を最小限にすることが出来ます。
- アンテナなど飛ばされそうなものはしっかりと固定しましょう。固定できないものは屋内へ移動しましょう。
- 停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオと予備の電池を準備しておきましょう。
- 浸水が予想される場合は、家財道具や貴重品、食料などを高い場所へ移動しましょう。



今日から始める 防災準備！

突然起きる災害では、どのような事態が発生するのか、予測することはむずかしいものです。あなたは、ご自分の避難所をご存じですか。

また、けがをしても、すぐに救急車が来られるとは限りませんし、早急にはライフラインの復旧が見込まれないことも考えられます。

災害に備え、日ごろから避難所の確認や応急手当の学習、非常持ち出し品の用意をしておきましょう。

■避難所の確認

市は、お住まいの地区ごとに避難所（屋外・屋内）を設定しています。各家庭に配布している保存版の『のぼりべつ市民便利帳』に掲載していますので、家族みんなで確認しておきましょう。



■応急手当の学習

出血ややけど、骨折、ねんざの応急手当、心肺蘇生法などを学習しておきましょう。



▲日本赤十字社救急法講習会

※毎年、日本赤十字社と登別市消防署などでは救急講習会などを開催し、ケガなどの応急手当や心肺蘇生法の実技指導を行っています。市広報紙の『情報あらかると』でご案内しますので、ぜひ受講してください。

■非常持ち出し品の用意

大きな災害が発生した場合、水道施設や道路が損壊し、救援活動が行われるまで時間がかかることも考えられます。災害発生から数日間自足できるよう非常持ち出し品を用意しておきましょう。

【非常持ち出し品の例】

- 非常食：米、インスタントラーメンなどの保存食品、缶詰、水筒、飲料水、粉ミルク、あめ、チョコレートなど
- 貴重品：現金、預・貯金通帳、印鑑、健康保険証など
- 携帯ラジオや懐中電灯
- その他：衣類、ライター、雨具、毛布、軍手、タオル、医薬品、紙オムツなど

防災に関する
問い合わせは

総務課

☎ (85) 1130

FAX (85) 1108